

「さんべでミニ四駆体験 ～ワイルドミニ四駆～」

1 趣 旨

- ・家族に体験活動プログラムを提供することで、家族の絆を深めるとともに、「早寝早起き朝ごはん」をはじめとした基本的な生活習慣を確立するきっかけづくりを行う。
- ・活動を通して、「ものづくり」の楽しさ、作ったものを実際に走らせる楽しさを体験することで、体験活動への興味・関心につなげる。

2 事業の概要

- (1) 期 日 令和3年8月28日(土)～ 8月29日(日)【1泊2日】
- (2) 会 場 国立三瓶青少年交流の家
- (3) 協 力 HOBBY SHOP 地球堂模型
- (4) 対 象 主として小学生とその家族
- (5) 参加者 43名(16家族) ※募集60名(20家族程度)、応募71名(24家族)
- (6) 日程・内容

8/28 (土)	受 付	11:00	12:00	13:00	I これがワイルドミニ四駆!! ～ワイルドミニ四駆を知り、 作ってみよう!～	17:30	19:00	II 選択活動 ①ワイルドミニ四駆コース体験 ②天体観察(島根県立三瓶自然 館サヒメル) ③自主活動 ・カブラ ・所内でゆっくり など	20:30	22:30
		オリエンテーション はじめの会	昼 食	夕食・入浴・休憩		就寝準備	就寝			

8/29 (日)	起 床	6:30	7:00	7:40	9:00	9:30	～	11:30	11:50	退所後は… ・交流の家のプログラム体験(カブラ等) ・島根県立三瓶自然館サヒメル見学(割引券あり) ・さんべ温泉(割引券あり) ・世界遺産石見銀山遺跡見学 ・早めに帰宅 などご都合に合わせてプランニング
		朝のつと い	朝食・休憩	退所点検	III 「さんべ・ダカール ラリー!!」 ～ワイルドミニ四駆の コースを作ってみんな で走らせよう～	おわりの 会	解 散			

3 事業の特色

(1) プログラムデザインと企画のポイント

本事業は、ワイルドミニ四駆を作る「ものづくりの楽しさ」と、工夫して様々な場所を走らせる「工夫する楽しさ」を体験する内容となっている。1日目は室内にコースを作り工夫しながら走らせ、2日目は屋外の山道や砂利道を走らせ、走破する達成感と雄大な自然の中で走らせる開放感を味わうことができるようにした。

(2) 運営のポイント

室内で活動する時には、ホワイトボードを「情報共有板」として活用し、子供たちが自由な発想で考えた走らせ方などを自由に書き込み、みんなで共有できるようにした。屋外で活動する時には、みんなでミニ四駆をグラウンドまでの山道を走らせた後、家族ごとに自由にコースを選んで走らせることで、雄大な自然のフィールドで思いきり活動できるようにした。

(3) 広報のポイント

チラシの配布先を他の教育事業に申込実績のある県内の家族に限定し、HPや報道機関への広報を活用することにより、広報費の削減を図った。

4 参加者へのアンケート結果

(1) アンケートの集計

	満足	やや満足	やや不満	不満
事業全体	89	11	0	0
プログラム	82	18	0	0
運営	86	14	0	0
職員の対応	93	7	0	0

(%) (2) 参加者の声

- ・作品制作に加え、改造やデコレーションの時間も
あり、子供がすごく喜んでた。
- ・タイムを競うミニ四駆と違い、自分でコースを設
営できるところがよかった。
- ・前回のイベントに参加していた子供さんと一緒
になり、声をかけてくれて嬉しく思いました。

5 成果と課題

《成 果》

- ・走らせ方を限定せず、自由な発想で活動できるようにした。障害物や小道具を多く準備したところ、子供たちは主体的・自主的にコース設定を行うなど、発想力豊かに活動する様子が確認できた。
- ・時間に余裕のある日程を組んだところ、作り方や走らせ方に個性や創意工夫が見られ、スムーズな運営ができた。
- ・「情報共有板」を用いたことにより、子供たちが考えた走らせ方を共有することができた。屋外では、砂利や芝生などコースになりそうな場所を探し、様々な場所での試走を家族と楽しんでいた。事業終了後も屋外で工夫して取り組む姿が見られ、継続的に活動を楽しむきっかけづくりができた。

《課 題》

- ・募集段階では一定数の参加者を確保できたが、新型コロナの影響によるキャンセルで、64名の参加予定者は当日43名まで減ってしまった。事前に用意した教材に余剰が発生すると協力先である地球堂模型の負担となるため、募集の範囲や締め切り時期を見極め、台数の調整ができると良い。
- ・屋外活動の時間は雨天時の活動も用意はしていたが、1日目の選択活動の延長のようなものであった。雨が降っても参加者が残念に感じることがないように、屋内スペースを広く使った、ダカールラリーに代わるイベントを準備しておく必要がある。



ワイルドミニ四駆は比較的作りやすく、短時間で完成した。



段ボール等を使った自作のコースを走らせる。



荷物を引いてどこまで走るかチャレンジした。



独自の遊び方を模索。



自由な改造やデコレーションでオリジナルのミニ四駆が完成。



「さんべ・ダカールラリー!!」で、山道をワイルドに走破した。

(担当：事業推進係主任 岩本 一峰)